

やつた！この偉業、自信につなげよう！

新しい年をご家族お揃いで晴れやかにお迎えのことと存じます。

昨年十一月五日の空は快晴でした。その真っ青な空に届けよと素晴らしい吟声が響きました。「平成二十九年度全国吟詠コンクール」（武道館大会）で我が千代田岳精会男子チーム三五名の皆さん、見事、出場四十一団体中第四位の偉業を成し遂げたのです。

上位三団体が全て女子であり、まさに男子二十チームの頂点に立つたのです。これまで先輩各位が挑戦し、果たせなかつた偉業をついに実現したのです。代表の皆さん「おめでとう、ご苦労様でした！」。そして応援して頂いた千代田の吟友の皆さん「ありがとう！」

◆年間スローガン 「楽しい教場を 皆でつくるー三〇ー」

◆取組み事項

一、新しい会員さんを迎える機運を皆で作るため、「吟友(とも)呼びの日」キャンペーンを推進する。

新しい会員さんを迎える機運を皆で作るた  
に「吟友（とも）呼びの日」キャンペーン  
推進する。

二、「層別研修会」を継続実施し新たに「上級層（中伝、五・六段）研修会」を開催する。

三、「ブロツク毎温習会」を開催する。

四、「武道館コンクール」再挑戦を目指す。

一月二十八日～三十日、総本部主催の「鹿児島吟行会」が開催され、千代田から三七名が申込んでいます。参加者はもとより、参加しない多くの吟友挙げて成功を祈っています。

こうした努力が本番に見事結びついたと思われます。この偉業を皆の誇りとし、自信につなげ、「千代田岳精会」の益々の前進につなげたいもの続けられました。

平成二十九年度を大きな喜びとともに締めく  
くつて、新しい平成三十年を迎えた。

も開催されたりして、会全体の教場強化への取組みが積極的に行われてきました。また、プロツク毎の「温習会」や「層別研修会」も充実した開催がなされ、まさに「研修の千代田」の一層の前進があつたと思ひます。

これを受け、今年は次のようなことに取り組



武道館大会 賞状  
(平成29年11月5日)

# 千代田岳精会人事

◎桜ヶ丘教場 教場長 笠 泰泉

(九月一日付け)

◎清水教場

教場長 細川 修山  
副教場長 櫻田 謙山  
顧問 森坂 雄泉  
村上 龍道

同 同 同 同  
教場長 副教場長  
顧問 副教場長  
教場長 副教場長

三好 弘山 小鶴 正山 徳本 龍治  
湯浅 和泉 正山 小鶴 龍治  
（十月一日付け）

教場長就任のご挨拶

桜ヶ丘教場長 笠 泰泉

この九月から桜ヶ丘教場を担当させて頂いております。開設後七年、教場も皆さんも若々しく新鮮な力に満ち溢れた素晴らしい教場です。

私は丸の内支部教場所属でしたが、入会と同じ頃桜ヶ丘教場が開設され、自宅も近かつたので毎回練習にも参加させて頂いておりました。

今回、廣田教場長がご都合で任を離れられることににより、たまたま居合わせた適当な者として引前教場長と皆さんが創り上げてこられた最高の教場、更に素晴らしい教場として、次なるリーダーへ早く引き継いで行きたいと思います。

先日、初めて教場長として登壇させて頂きまし

た。「笠さん、大丈夫だよ！遠慮しないでいいよ！」私達がついているよ」といつたエールがビンビン伝わってきます。これが桜ヶ丘なんだよな、と心から有難く思いました。

笠だと危なつかしいから本腰を入れて応援せねばと、鈴木会長や岩崎先生、前教場長も気合いが入っています。本当に有難い教場長就任です。岳精会に入会の恩人もアドバイスをくれました。「教場の皆さんはお父さんとして心から応援してくれると思います。それだけ教場長として強い自覚を持つて欲しい」と。

本当に有難いことです。仕事集団では考えられない体験でした。なおさるに、桜ヶ丘の仲間のために全力を尽くさねばと、自らに言い聞かせている次第です。

就任のご挨拶

中野教場長 三好 弘山

この度、中野教場長を務めることになりました

入会したての頃「詩吟が一人前になるには、十年掛かる」と磯田先生から伺ったことがあります。

私は入会七年です。進歩の遅さを考えれば未だ半人前がやっと、という處です。教場長は稍(やや)荷が重い感じですが、若い教場で在籍する先輩が居られず止むを得ず引き受ける仕儀となりました次第です。実技指導には力不足と言わざるを得ません。そこで、実技指導についてはこれ迄通り、

村上・徳本両先生にお願いしております。

特に、当教場生みの親である村上先生は昨年卒寿を迎えるました。が現在も毎回教場にお出でになり、元気にご指導下さっております。甚だ不甲斐ない弟子で申し訳ありませんが、もう暫く甘えさせて頂こうかと思つております。

翻つて私は主に教場の雑用ご用達として、和気藹々たる教場の雰囲気を壊さぬよう教場メンバーや助けて貰いながら教場活動がスムーズに進むよう努めたいと思つております。

不慣れなことで半ば困惑しております。諸先輩のご支援・ご指導の程、宜しくお願ひ致します。

## ◆銀座教場が移転します。

銀座教場が平成三十年一月から、左記へ移転します。開催曜日はこれまで通りです。

(新住所)

中央区日本橋久松町一一一  
久松町区民会館



## 秋の昇伝審査会

### 二八名が受審しました

師範及び奥伝以上の審査が秋晴れの文化の日に、かながわ保育会館の会場で行われました。師範・準師範の方々は筆記と面接、奥伝以上の方々は宗家・指導本部員の吟技審査を受けられ、参加者全員が優秀な成績で合格されました。

おめでとうございます。



当日は宗家の前で課題吟を吟じ、無事終わりました。しかし、九月に心臓の手術を致し、受審出来るか否か不安でした。少しづつ元気を取り戻し、思い切って受審させて頂きました。

ただ、この日までに詩文を暗記できず、手に持つて吟じ、宗家から「一ヶ月あれば必ず覚えられるはず」とのご注意頂き深く反省致しました。また、千代田の吟友と一緒に受審出来てとても心強く感じました。無事終わりましたことを仲間と感謝しながら帰路につきました。

この度、皆伝という重い雅号を頂く事となり、体調に気を付けて細く長く岳精流の吟を楽しみたいと思つております。

### 免許皆伝とは

丸の内支部 八田 龍仁

奥伝審査を終えて  
新宿支部 奈良崎 應風

奥伝を伝授  
新宿第一 岡部 穎風

十一月三日、奥伝審査の日は奇しくも「文化の日」でした。漢詩と日本の言葉とをコラボした「詩吟」は日本の文化として伝え残されるものです。

奥義とは、求めれば何時もその先にあって、手が届きそうで届かず追いかけている気がする。たどり着けないだろうものに向かつて傘寿を過ぎた老生は、これからも吟道を辿っていくことに生甲斐を求めて行こうと思う。

年だけれども、有難いことに周囲の方々は奥義を極めたと解釈して敬意を払つて下さる。

奥義とは、求めれば何時もその先にあって、手が届きそうで届かず追いかけている気がする。たどり着けないだろうものに向かつて傘寿を過ぎた老生は、これからも吟道を辿っていくことに生甲斐を求めて行こうと思う。

奥伝審査を受けて

清水 望月 輝風



年初から体調がすぐれず、教場での練習も休みがちでした。肺癌による余命が告知されており、今回の昇伝審査が最後の機会となるであろうことを感じ、どんなに無理をしても受けたいと決心しました。

審査当日、宗家直々の審査へ変更になりました。名前を呼ばれ室内に入り、杖を支えに体位を整え、「江雪」柳宗元と俳句「朝顔に」加賀千代女を今自分のなりに精一杯吟じました。吟じ終えて、修得手帳に宗家ご自身で「見事な吟（岳精会吟）でした」と記入され渡された時は胸に感激がこみ上げてきました。

天命の許される限り、吟の先輩・友人との絆の大切さを確認しました。

健康の一助にと軽い気持ちで始めた詩吟でしたが、いつの間にか吟の奥深さに魅了されてきたものを、これを機にどのように生かすことが出来るか自分の立ち位置の重さを感じてなりません。頂いた諸先生方へのお礼と感謝の意に代えさせて頂きます。

これから先、吟の上達と共に底辺の組織作りを支えていければと望んでいます。

澤精淳先生にお目にかかり「大丈夫よ、頑張つてね」と励ましの言葉を頂き、ホッとしました。審査に先立ち宗家からの訓辞があり、これから線での指導ではなく、生徒さんと共に学び、そこから学びることが重要」とのお言葉に深く感銘を受け、心に刻み付けました。

審査に入り、秋山精正先生と補佐役の越智精麗先生の前に立つと異常な緊張を覚え、指定吟題二題を詠ずる時間が何時もの倍に感じる程でした。

吟じ終えた後の開放感と喜びは、これ迄にご指導頂いた諸先生方へのお礼と感謝の意に代えさせて頂きました。

また、日頃カルチャーでご指導を頂いている前

的に真似しようと努力するうち、少しずつ上達するものが自分でも分かるのが嬉しくハマつていきました。

絶句、律詩までは吟符があれば曲がりなりにも吟じられるようになりますが、未だに母音の発声に難があり、吟の奥深さにたじろいでいます。一日も早くこの壁を乗り越え、伝位に恥じない吟が出来るよう精進したいと考えています。

一方、教場では先生と呼ばれる立場になりました。先輩より受け継いだものの後輩への伝承にも微力を尽くしたいと思います。

### 雅号「風」を頂いて

草加 木村 誠風

郵政省を平成十年に定年退職し、明治生命のお世話になつた何年か後、先輩から「ものは試しに」と誘われ丸の内第一教場で詩吟の世界に…。

亡くなられた飯田前会長から、平成十四年に教本「天の巻」裏表紙に『勉強会は週一回、練習は毎日精進を積み重ね熱意・努力・あくなき執念で一つ上を目指す』の金言を筆書きで賜る。

平成二十六年、鈴木会長から『正確な節調は木村さんの強みです。声を前に出すことに努めてなお一層の精進を祈ります』との金言を「続天の巻」の裏表紙に筆書きで頂きました。

妻が亡くなるまで七、八年休会し、現在は右足大腿部に激痛がひどく、日常生活も一本の杖の支えが無ければ歩行困難の生活です。

この度、奥伝を頂き詩吟の世界へのお招きの感

謝の証として周囲に岳精流の輝く存在感を周知宣伝いたしました、退職後無縁となつて作成を試みます。

### 二宮先生のこと

我孫子 岩瀬 碧山

丸の内教場時代お世話になつた故井手・大熊教場長、林・二神・平井・稻垣・大杉さんに感謝し、江口先輩、書簡部時代何かとご配慮下さった米野部長、四家・須崎・宮古さんに年賀状で誇りある報告をいたします。

現在は草加教場で岩崎先生、太田教場長に指導を受けており、家庭では入浴中に会詩、「春望」他好きな吟を二十分、詩吟一途の人生を楽しんでいます。

### 真似て学ぶ

我孫子 佐藤 一山

鈍感で音痴の私が準師範とは、自分自身でも理解出来ずになります。

声を出して相手に訴える→うつたうる→うだうだううた（歌）と言う過程で歌が出来たといわれています。和歌などの歌舞音曲の日本文化の多くは声を出して歌い、舞い、奏でる、そして口伝えにて伝承された文化だと思います。

吟においても先人の吟を口授すること、即ち先人の吟を真似て学ぶことが基本だと思います。

「真似ぶ」は「学ぶ」に相通じております。準師範とか厳めしいものではなく吟を楽しく真似て学び、人の和を尊び「真・善・美」の精神を皆さんと一緒に深耕して行きたいと思つております。

今年の参加は四十一チームでした。百チーム以上が出席していた昭和五十年代と昔日の感があ

作年二月九日、二宮教場長が薬石効無く他界された。八年前の九月、誘われて松戸教室に入会。新米生徒は太郎田隆、佐藤一山、私の三人。ハザマの故前田さんがコンダクターを持参して毎回参加、他にも大勢の方が応援して下さった。教場長の人徳もあって毎回松戸駅界隈の安酒場で喉を潤すのが楽しみであった。

その後教場は我孫子へ変わつたが、喉を潤す習慣はしっかりと受け継いでいる。二宮教場長の他界と太郎田さんの退会がありました。石田勝山さんが教場長を引継がれ、萩原ハザマ教場長、松尾宝山、新陵教場・青木美憲さんの応援で解散の危機は乗り越え、現在も賑やかに練習を重ねることが出来ている。準師範の自覚等、未ださらさら無いがままですが二宮さんもさぞや安堵されるに違いない。

心から冥福を祈りたい。

### 第四十九回

## 全国吟劍詩舞道連盟武道館大会

昨年、創立三十周年の行事で挑戦を見送ったが今年は満を持して男子チームが申込みました。悲願の上位入賞への挑戦でした。

今年の参加は四十一チームでした。百チーム以上が出席していた昭和五十年代と昔日の感があ



ります。岳精流からは本部男子、多摩女子、六郷女子と合わせ四チームが参加しました。特記されるのは、本部男子が初めて水一本で挑戦したことです。（経緯については「龍吟」一月号の大飼勇山氏報告を一読下さい）千代田から十三名が出場しました。

徳本副会長、萩原研修部門長、宮野許証部門長が責任者となり、岩崎先生の指導で十六回の厳しい練習の結果は、出場男子二十チーム中の最高位で、トロフィーにあと一步の四位入賞と素晴らしい結果でした。

この厳しい訓練と武道館出場の経験は、参加一人ひとりの貴重な財産となります。

### 武道館合吟コンクール

神田教場長 平井 武泉

### 武道館合吟コンクール四位入賞

新陵 小梶 清泉

十一月五日、武道館での合吟コンクールで我等千代田男子三五名は団結力を發揮し、四十一チーム中四位入賞という好成績でした。

三位までは女子チームで、男子では一位です。岳精流の出場四チームでもトップでした。本当に嬉しいです。合吟の好成績の喜びというのは、選手全員、ご指導の先生方、応援の吟友との喜びを分かち合い、共有できるということで、独吟にはない大きな喜びと嬉しさを感じております。

十六回に亘り情熱溢れるご指導を下さった徳本先生、常に適切なご忠告と励ましを下さった総監督の鈴木会長、指導顧問の磯田、岩崎先生、本当に有難うございました。少しは恩返しが出来たか

なという選手一同の気持ちです。

しかし、何と言つても今回の好成績の最大の原因は会長が、キヤリアに關係なく出場したいと意欲を持つ者でチームを作ると決められたこと、これが本当に良かったのです。意欲ある者の集団が、練習を欠席しない、先生方の忠告を受け入れる素直な態度を生み、これが本番の好成績になりました。ただ、これからが大切です。あの時の千代田はマグレだつたと言われない様に、安定した実力をつけるよう更に努力しましょう。また男女揃って千代田単独チームで出場するのが夢です。今回、先導をやらせて戴きましたが初めてでしたので無我夢中でやりました。なんとか皆様の足を引つ張らずに済みホッといたしました。

吟歴五年目に入る自分にとって、今回の挑戦は色々と意義深いものとなつた。春から十六回に亘り吟の基本を繰り返し指南頂いた熱血の人・徳本先生、单刀直入の鋭い指摘が心に響いた鈴木会長と岩崎先生、更に不斷の鍛錬とチームワークの大切さを実践で教えて下さったチームの諸先生方、素晴らしい吟友に唯々感謝あるのみである。



## 温習会 ブロック毎に開催

今年の千代田の温習会は会場の収容力と「参加者全員が独吟に登壇！」を基本として、ブロック単位で開催しました。二十周年記念大会を行つた中央ブロック以外の三ブロックの会場は明治安

て下さった鈴木会長や徳本先生の満面の笑みを見て、何とか入賞は果たせたか？と安堵感も少々。

やがて審査結果の発表となる。先ずは、入賞チ

ームが出番順に二十五位まで読み上げられる。我がチームの番号も挙がりドッと歓声が沸く。次の

関心は上位入賞チームの名前に移る。三チームが仰々しく発表される。今回も女性の牙城は崩れず、

男性陣からは半ば諦観の声も…。間もなく四位以下が電光掲示された、その瞬間何処からか「四位以

だ」と叫ぶ声。皆の顔が一瞬 unbelievable !! 視線が一斉に掲示板に向い、冗談ではないことが分

かるや、一帯は歓声と握手の渦と化し、互いの健闘を讃え合い、至福の瞬間を迎える。

田生命新宿ビル9F大会議室をお借りしました。

## ◇東陽町ブロック

・八月九日（水）十三時

東陽町支部、銀座、神楽坂、調布、熊谷、  
鎌ヶ谷、市川 計七教場

・参加者 六八名、懇親会五一名

・参加者 六八名、懇親会五一名

## 温習会報告

東陽町ブロック長 菊池 龍駿

千代田岳精会はブロック活動を運営の大きな柱としております。東陽町ブロックの運営は、毎月のブロック教場長打合せで決まります。

今年の温習会は「総参加」「吟力の向上」「友呼び」を柱に、教場合吟と全員独吟、伴奏は教場責任などを骨子に、今回の幹事教場である銀座教場がプログラム作成、司会を担当し見事に成し遂げてくれました。会場設営は男子全員で担当、手際よく行されました。

各教場とも熱のこもった吟詠に一丸となつた練習の成果を感じ取れます。特に小谷野熊谷副教場長率いる神翠流煌弘会の剣詩舞友情出演は素晴らしい、会場は万来の拍手となりました。磯田顧問は講評で、特に幹事教場銀座の皆さんの真摯な取り組みに敬意と賛辞を贈られました。

この体験は会員・教場の明日に向けての「更なる向上と前進」に貴重な礎となると信じています。

## ◇中央ブロック創立二十周年記念温習会

・九月二十六日（火）杉並公会堂

清水、中野、逗葉、神田、用賀、志茂、  
ハザマ支部、我孫子、新陵、生田、みなとみ  
らい 計十一教場

・参加者 一〇〇名

## 清水・神田・ハザマ教場

創立二十周年温習会

実行委員長 萩原 晴風

九月二十六日杉並公会堂で来賓に鈴木会長、磯田・岩崎顧問をはじめ千代田の幹部と会員一〇〇名の参加で開催された。

清水・神田・ハザマの三教場は同時期に発足して五周年温習会を平成十四年二月に湯島聖堂・斯文会講堂で行い、それ以来の懸案であつた二十周年大会の実施を昨年秋に決定した。

先ず温習会の基本コンセプトを「全員独吟」「簡素」とした。

当時、三教場六〇名の会員が、現在十一教場、一〇名と規模が拡大。年明け早々から準備委員会を立ち上げ、後の企画委員会で綿密な検討がシナリオからプログラムまでなされた。

当日の進行も「一人一吟」「教場合吟を連續しない」「剣舞」を挟む等変化をもたせた。

引き続いて懇親会が行われたが、「全員独吟」発表の達成感からか稀に見る盛り上がりとなりました。特に初参加のみならぬ教場の皆さん元気さは益々教場の隆昌を期待出来る明るさがありました。

三教場の二十周年温習会が無事終了。この中央

ブロックのチームワークを明日の千代田の発展に繋げて行きたいと思います。参加のご来賓、会員の皆様のご協力に心から感謝申し上げます。

## 三教場創立二十周年温習会のこと

神田教場長 平井 武泉

書くにあたり、九月二十六日に開催されました

我々の創立二十周年温習会が無事、成功裏に終わった直後の満足感と安堵感を改めて思い出しております。皆でこの日の為に一生懸命練習したこと、徳本・萩原先生をはじめ各先生方が準備委員として尽力下さったこと、我が千代田内部のご来賓の会長、諸先生が始めから終わりまで熱心に観て下さり、応援して下さったこと、更に懇親会では来賓の先生方が先頭に立つて大いに盛り上げて下さったこと、まさに総合力の勝利と言えます。会は黙祷、開会の言葉、吟礼と定例の如く進み、いよいよ創立メンバー三人のお一人であり、九十歳の今も矍鑠（かくしゃく）とご活躍の村上龍道常任顧問（清水）が「三教場設立時の思い出」と往時を懐かしみ、予定時間を超えての熱弁を振って下さいました。特に私のような新米教場長にはとても参考になるお話をでした。

そして本番の教場合吟、独吟、剣詩舞に入りました。記念大会だからといって奇をてらう必要もなく、あくまでも原点である日頃の練習の成果を堂々と発表する場であるということを皆、十分認識しており、全員力一杯立派な吟詠と剣舞を披露することができました。

我々一般会員の吟詠等が終わり、来賓、常任顧問、会長吟詠を戴き、最後に萩原実行委員長の閉会の辞でめでたく終了致しました。

体調を崩される方もなく幸いでした。この後の懇親会も大いに盛り上りました。

緊張感・安堵感・反省

清水 堀田 宣泉

「真善美」に始まり午後五時までの独吟、合吟とプログラムは進みました。出場前の緊張感、吟じた後の安堵感、更に反省の心、吟ずることは、一人ひとりにとって精神的に成長する業であると感じた次第です。

身的なご指導、ご支援により現在の温習会に繋がつてゐることに感謝するのみです。各教場の会員も吟ずる楽しみ、会員間の交流、協調に生甲斐を見出されると感じたのは、私だけでしょうか？

温習会の一層の発展には、若い人の勧誘が求められます。そのためには練習時間帯の配慮が必要ではないでしょうか？

人生百歳の時代に、吟による健康維持が優先事項です。大いに吟じ、大いに人生を楽しみ、温習会の発展を望んだ一日でした。

三教場創立二十周年記念温習会の  
舞台係を担当して

入会したのはハザマ教場が創立十五周年の年でした。早いものであれから五年の月日が経ちました。

当日は舞台係を担当しました。

ラムを作成しました。

参加者は独吟吟詠会員三九名と来賓の鈴木会

かることが多い状況です。六月の全国大会に比べればマイク配置替え等のパターン数も少なく、肉体的には比較的楽でした。大変だったのは剣舞の前後に行うコンダクター机の出し入れです。大量の配線を外さないよう素早く舞台袖へ移動する

のに結構気を使いました

大会本番後の懇親会では、磯田先生が熱唱された五木ひろしの「細雪」が印象的でした。これから歳を重ねても先生のように、張りのある若々しい声で詩吟やカラオケができるよう三十周年、四〇周年、二回目、三回目、四回目。

十周年を目指して頑張りたいと思します

◇新宿ブロツク

- 十月二十四日(水)十三時十七時  
新宿支部、新宿第一、第三、第四教場  
参加者 四一名

◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆

懇親会は会長の「」厚意で十七時から十九時まで明治安田生命ビル9Fで行われました。用意の弁当、飲み物に皆様の差し入れ（アルコール、おつまみ、お新香など沢山）で盛大な会となり、無事終了する事が出来ました。有難うございました

新人から始まり、それぞれ教場での練習の成果が十分に発揮できたように思いました。鈴木会長磯田常任顧問にご出席頂き、教場の皆様の参加とご協力で楽しい温習会が出来たことを大変有難く思っています。

参加者は独吟吟詠会員三九名と来賓の鈴木会長、磯田常任顧問の四一名です。

加納教場長への黙祷、吟礼に始まり、新宿プロックの男女別合吟及び各教場合吟、そして会員吟詠という構成です。伴奏は支部プロックの先生方にお願いして弾いて頂きました。

七

準備委員に小柴藤山、中野陽山、小倉孝之の三

十月二十四日（水）十三時～十七時、明治安田生命ビル9Fで新宿ブロック温習会を開催しました。

9F会議室で開催されました。報告は次号となります。平成二十九年の三ブロックの温習会が明治安田生命ビル会議室を借用出来たことは有難いことでした。深く感謝します。

お陰様で私は詩吟の世界に足を踏み入れて二十六年、素晴らしい愚直という人生を戴きました。一日一日を大切に、残された時間を感謝しながら有意義に過ごしたいと思います。

## 年男・年女

今年の干支は 戊 戌つちのえいぬです



詩吟と俳句の人生

神楽坂副教場長 橋本 隆山

入会の動機は、東陽町に居られました耳塚昇風

先生の誘いがあり、当時俳句の語彙不足を感じていた折りであり、漢詩の勉強によつて俳句の表現力が広がるのではと思ひ平成十九年五月に入会しました。

神楽坂教場で勉強する傍、弘報部・研修部の手伝いをしておりましたところ二十二年四月、突然当時研修部長であった前田道風先生から自作自詠(俳句)研修リーダーを委任されて現在に至つております。何と言つても小学校一年生で大東亜戦争に突入、五年生で無条件降伏による敗戦の憂き目に遭つたことです。皆様もご承知の通り、この後大変な苦難と数々の変遷を経て平和の有難さを甘受する今日を迎えました。

しかし、この平和は失われた多くの尊い命のかけがえのない代償のお蔭であることを、我々は忘れていいか? 特に最近のニュースの殺伐さて、川口カルチャーや千吟会、詩歌、演奏等の研修に参加、完全に詩吟中毒状態になりました。ここ迄のめり込むことが出来たのは、ご指導頂いた諸先生、吟友のお蔭と感謝しています。教場・仲間があつてこそこの詩吟であり、お互いに切磋琢磨することにより吟の向上があると思ひます。俳句も仲間の存在が大きい座の文学であり、詩吟とつながる人生と言えるでしょうか、これでは余りにも寂し過ぎます。

サムエル ウルマンの詩

愚直

東陽町支部 太田 龍箭

今年も青春を続けます  
みなとみらい 宮本 晃三

生かされて 八十路半ばの 秋思かな  
千舟

「青春とは人生のある期間を言うのではなく、心の持ち方を言うのであって年を重ねることが老いる事ではない。(中略) 青春とは人生の深い泉の清新さを言う」を心に「真善美」の追求で詩吟と俳句の両立をはかり、健康な老後を送りたいと念願しております。楽しい教場運営を心掛けたいと思っております。

生かされて 八十路半ばの 秋思かな  
千舟

二〇一八年戌年、生まれた年を含め六回目の年男です。昨年詩吟を始めました。詩吟、ウクレレ、ハーモニカ…。音、料理、仕事、愛、コトバ、体力、ラジオ体操、すべて己の魂。

先日、山下公園で一人の女性が歌っていた。それとはなしに聞いていた。彼女の自作の歌が終わる、思わず私はハーモニカをはじめた。エルガーの「愛のあいさつ」彼女は涙していた…。握手を求められた。

また先日ピアノ、クラリネット、トランペッタ、バイオリン、パークッシュンのミニコンサートを聞きました。アンコールでマンボが始まつた。私は思わず踊りました。樂師達に誘われて皆で踊りました。楽しかつた。

I Love Music and Dance

今年も青春を続けます。世界平和を願つて

ハマボーアイ

## 詩吟との出会い

市川 島田 政敏

## 詩吟を始めたきっかけ

草加 一瀬 聖子



張つてみよう。

私が詩吟と初めて出会ったのは中学三年の時です。国語の教材で漢詩を学習したことがありました。担当の先生が「漢詩は詩吟と言うものがあった」と教室で大きな声で吟じて下さいました。皆きよとんとした感じでしたが、その美しく張りのある声に二度びっくりでした。朗々と響きわたる声に惹き込まれてしまいました。

国語の須古美延先生は僧職でもあられたので、毎日の読経で鍛えられた?筋金入りの声だったのです。六十年以上前のことですがあの時の驚きは今でも覚えています。

その後大学に入った時吟詠部に入部し活躍しましたが、卒業したら全くご無沙汰になってしまいきました。

退職してから縁あって「漢詩を読む会」という会に参加し、活動していました。「詩吟をやらないうか」と誘いを受け、始めた次第です。近頃は外出すると高齢の方々がとても多く見受けられます。しかも、朝夕に限らず運動着で走ったり歩いたり、それぞれ健康法として活動されているようです。健康維持・増進の手段として運動のみならず、詩吟の发声も腹式呼吸で腹筋を鍛練するので良いと思います。日々興味の赴くまま、今を精一杯楽しみたいと思います。

剣を巧に操る迫力ある日吉千祥先生にカルチャーリー教室で出会いました。私は剣舞の魅力に惹かれ、詩吟に合わせて詩歌の心を体技で表現したい、漢詩を更に理解したいと思いました。日吉先生の紹介で、草加教場へ入会しました。着物が似合う明るい太田教場長さんと教室の仲間に支えられ、四苦八苦しておりますが、詩吟の奥深さ、素晴らしいを知りました。詩吟を聴いている人、剣舞を観ている人を感動させることができます。出来るようになりたいと思います。

今年は、いよいよ還暦を迎える「もう六十歳?」と特別な気持ちです。夫の転勤に伴い東京に来て四年半。二十五年間の友人の誘いで初めて詩吟に出会いました。教場の先輩方のパワーに刺激され、励まして頂きながら続けることが出来ています。

この三十年間に大阪、名古屋、広島、福岡、東京と引越しを繰り返してきましたが、それぞれの土地で人との出会いや思い出が出来て楽しかった転勤族人生です。

東京で詩吟を始めたのと同じように、何事も負わずにこれからも、何処ででも、新しいことに挑戦してみたいと思います。

「もう六十歳?」ではなく「まだ六十歳!」なのですから。

年女! 気持を新たに

日暮里 藤原 玲子

新春のお慶びを申し上げます。

詩吟を始めて三年半が経ちました。入会しなければ一生巡り合うことのなかつた沢山の諸先輩方に出会うことが出来、吟の指導以外にも楽しい時間を共にする機会があつて、私のこれから的人生を豊かにしていただけるという喜びを感じています。

桜ヶ丘 玉置ナラエ

還暦を迎えて

ます。

吟は学ぶほどに難かしく、奥の深いものだと思  
い知らされていますが、今年は年女・還暦を迎  
えます。気持ちを新たに更に精進して取組んでいき  
たいと思っています。

## 教場だより

芝大神宮秋季大祭奉納吟

清水 星野 久風

小薦正山「汪倫に贈る」  
三好弘山「秋風の引」、細川修山「静夜思」、松岡  
省一「江雪」、堀田宣泉「出塞行」、船津英山「峨  
眉山月の歌」、望月輝山「芙蓉樓にて辛漸を送る」、  
渡邊華風「帰雁」、湯山龍徳「湖上に飲す」、星野  
久風「鸕鷀樓に登る」、徳本順風「弘道館に梅花  
を賞す」、村上龍道「秋思」。最後に鈴木会長の  
「菊花」で締めて頂いた。吟詠中も拝殿前には参  
拝者が引つ切りなしに訪れ、聴き入つて下さる方  
も多かつた。

今年も清水教場では、九月十一日から二十一日

までの芝大神宮の秋季大祭（通称、芝明神のだら  
だら祭り）期間中の十二日、時折參集殿で練習し  
ているご縁から詩吟を奉納した。

当日は鈴木会長も参加され十一時半集合、練習  
後十二時拝殿に参内。神官の祝詞奉上、会長と教  
場長による玉串奉奠の  
後、各自神前で力強く  
吟詠した。

笛倉和江「九月十日」

市倉妙泉「名槍日本号」  
神谷知泉「武闘に宿る」

金岡博人「山行」

矢崎春泉「逸題」

宮野信泉「凱旋」

森坂雄泉「九月十日」  
湯浅和泉「海を望む」



「みなどみらい秋まつり」に全員で参加  
みなどみらい分室長 田川 行泉

十月一日、我々の教場の隣にある高島中央公園  
で「第八回みなどみらい秋まつり」が開催され、  
会員からの参加提案もあり全員で参加いたしました。当日は素晴らしい秋晴れで、みんなで決め  
た蘇軾作「春夜」を元気に吟じました。これは二  
月に取り組んだ最初の吟題でした。

司会の喜劇集団「吉本興業」の若手芸人達の助  
けを借りながら、配布した資料で詩吟の楽しさや  
「みなどみらい教室」の活動状況を説明して入会  
を勧誘しました。まず鈴木会長と飛び入りを含め  
十四名が特設ステージに上がって合吟を披露し  
た後、資料にもとづき来場者全員で素読を行つた  
上で合吟を行いました。ステージの上から見ると、

多くの方々が一緒に吟じておられるのが確認で  
きて感激いたしました。今後とも色々な機会を使  
つて、詩吟の楽しさや効用を多くの人に伝えてい  
きたいと思っています。

## 鹿児島吟行会

総本部の平成三十年最初の大行事は一月二十八日～三十日の鹿児島吟行会です。千代田からは三七名が参加申し込みしています。

その第一の目的は、岳精流の教場がまだ存在しない鹿児島へ拠点を作ろうということで、宗家の公開講座の開催を足懸かりとしたいと企画した第四次プロジェクトの取組みです。

公開講座の担当責任者として、プロジェクトメンバーの山口龍央副会長が何ヶ月も前から、鹿児島の元勤務先の知人・友人に公開講座と詩吟教場開設について働きかけを進めており、千代田でも鹿児島出身、仕事関係の繋がりのある方々に知人・友人への出席のお誘いを呼びかけ、取組んできました。初日の二十八日、鹿児島市内の城山ホテルに三〇〇名規模の会場を準備、地元の参加者一〇〇名以上を目指しています。ぜひ成功させましょう。

もう一つの目的は、知覧の「特攻平和会館」で国の未来と家族の安寧を想い散った若き靈に手を合わせることです。日本人として一度は見学してほしい場所です。

参加申し込み会員数は、東京一二一名、中部三六名、大阪八名、現地合流が四一名、合計二〇六

でに風邪をひかないように注意して、鹿児島観光も楽しみましょう。

### 【新会員紹介】

#### ◇丸の内支部

津田 孝哉氏（十月入会）

今回入会させて頂きました津田孝哉と申します。昭和十七年生まれ、福岡出身です。

趣味は絵画、旅行、古美術鑑賞です。何か目的を持つて張りのある生活をしていきたいと思っていましたところ、長年お付合い頂いています館脇悠泉さんに紹介いただきました。全くの初心者ですが宜しくお願ひします。

#### ◇調布教場

辻 としこさん（十月入会）

この度、千代田岳精会に入会させて頂きました。数年前から渡邊調布教場長さんからお勧めがあり、退職を機に心と健康に詩吟は良いなど思つて始めました。楽しく練習させて頂き先生、皆様には心から感謝しております。今後とも宜しくお願ひします。

#### ◇熊谷教場

橋本 修氏（十月入会）

趣味の妻沼書道教室に通つていたとき、仲間の森谷邦夫さん（熊谷教場）に紹介されました。大きな声を発することは健康にも良い方法であると考え、快く入会をお願いしました。高貴な詩吟を吟ずることが出来ること、大変樂しみにしています。

#### 池田 和子さん（十月入会）

主人が亡くなつて早や五年になります。当初

は何もする気になれず、毎日が暗く沈んだ日々でした。そして四年が過ぎた頃からか、ようやく外に出られるようになり、今ではサークル活動にも参加しています。そして詩吟も多少興味があつたので入会してみました。また一つ趣味が増えました。

#### ◇清水教場

山根 敏男氏（九月入会）

昨年、腰の手術後大好きなボウリングが出来なくなつてしましました。何か自分に合う趣味はないか捜していた時、清水教場に出会いました。大きな声を出すのは好きですが、難聴のため音の出し方が思うようにいかず、ご迷惑をかけております。今は教室のある日が楽しみで、一日も早く奥深い詩吟を勉強したいと思つています。先生はじめ皆様宜しくお願ひ致します。

天皇即位の五十五歳の時「多くの国民が退職する年齢、ご健康に努めて下さい」と妹君の島津貴子さんの言葉が印象に残っています。ご退位後は酷使されてこられた身体を癒され、ご長寿を祈ります。

昨年も「ちよだ」にご協力有難うございました。お読み下さっている皆様の叱責やご助言を弘報部あてにぜひ頂戴いたしょくお願ひ致します。

（八田 龍仁）

#### お知らせとお願ひ

総本部の広報紙「龍吟」に「読者の声」欄を作りました。頂いた感想やご意見を掲載し、今後の編集の参考にさせて頂いています。

「関心、共感をもつて読んで頂ける広報紙」作りに、最大規模の千代田会員の皆様から率直なご感想・ご意見をぜひ「龍吟」にお寄せ下さるようお願いしお待ちしております。様式や字数等は自由です。広報部・八田へお願ひ致します。

#### 編集後記

昨年の国内で最大のニュースは今上天皇が退位をご希望され、来年平成三十一年四月三十日に決まつたことだつた。

連綿と続く皇統、「日本書紀」や「古事記」の神話は史実とは言えないかも知れないが、日本で最も長く記録が残してきた家系である。



野島崎 星野久風(清水)